

平成28年度 第1回関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1. 開催日時・場所

平成28年6月15日(水) 13:00~15:00

関東森林管理局 東京事務所会議室

2. 検討結果

需給動向や各委員からの状況報告等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する必要はない。

3. 主な意見

(1) 需給動向について

○柱製品価格が安値保合なので、柱用丸太の生産量を減らし合板用として販売する状況となっている。

○スギとヒノキの価格差がなくなってきており、差別化が行われていないと感じる。

○スギ人工乾燥材が以前のスギ未乾燥材と同じ価格になっており、スギ未乾燥材の需要がない。

○設備投資が増え、素材生産量の活性化により出材量が多くなっている。

○住宅ローン金利の低下で今後新築需要の伸びが期待でき、それに伴い秋以降、素材の需要増と価格の上昇が期待される。

(2) 各委員からの状況報告等について

○市と協力して、森林認証を受けた森林を広く確保していきたい。

○これからの林業を考えると、偏りのある林齢構成を平準化するために皆伐も必要になる。

○間伐から皆伐主体の木材生産になると中目材(末口 18~28cm)が大量に生産されるので、その需要先の開発が必要となる。

○海外製品に対抗する価格・品質のものを、中目材からどう作るのかが課題となる。

○大断面心持無垢材を非住宅向け市場で流通させることと、米マツ主流の平角をスギで対抗できるようにすれば中目材の需要は生まれてくると思う。